

ドプラモード併用の有無について調べた。
結果：年間の検査件数は368～524件の間で推移し平均442.2件だった。年齢分布では、70代が1284件と最も多く、60代、50代と続いた。外来の検査は3425件と入院の997件の4倍だった。悪性疾患の検査は3617件と良性疾患の805件の4倍で、診断名として悪性は舌癌、良性はリンパ節炎が最も多かった。悪性疾患の検査はリンパ節転移の精査がほとんどであった。ドプラモードを使用したのは1181件で全体の1/4だった。

考察：・50～70歳代の患者数が多く、外来患者数が多くを占めた。癌の好発年齢であり、術後の予後検査が多いためと考える。

・悪性疾患の検査ではリンパ節の精査がほとんどで、良性疾患ではリンパ節炎の検査件数が最も多かった。この結果は超音波検査がリンパ節の評価に重要であることを示唆している。

演題6. 自発呼吸下全身麻酔中の血液ガス分析値の変化

○久慈 昭慶, 菊池 和子, 熊谷 美保,
小坂橋 航, 佐藤 健一*

岩手医科大学歯学部総合歯科学講座
障害者歯科学分野,
同口腔外科学講座歯科麻酔学分野*

目的：岩手医科大学附属病院・障がい者歯科でのラリンジアルマスクエアウェイ (LMA) を用いた日帰り全身麻酔では、現在まで、退院後のトラブルは特に無かった。臨床的に有用な自発呼吸下 LMA 全身麻酔にも、人工換気下の気管挿管麻酔に対する利点・欠点はいくつか考えられるが、欠点の1つとして“時間経過に伴う機能的残気量および気道径からくる酸素化効率の低下”が考えられる。そこで今回われわれは、実際に“酸素化の効率が落ちているのか、また落ちているのであればどの程度なのか”ということを確認するため、患者の血液ガス分析値をレトロスペクティブに分析した。

対象・方法：平成22年5～6月に本学、障がい者歯科外来においてプロポフォールと亜酸化窒素を用いたLMA全身麻酔を受けたASA IおよびIIの患者12名。術中 (LMA挿入後約15

分後および約45分後) に動脈採血を行い、ガス (pH, B.E., PCO₂, PO₂) 分析を行った。

結果：全例、呼吸性アシドーシス (7例においては代謝性アシドーシスも併発) を発症していた。2回のガス分析についてはいずれの項目も優位な差はみられなかった。

考察：プロポフォールによって呼吸が抑制されているので呼吸性アシドーシスになっている。術後は覚醒の遅れや悪心・嘔吐などの合併症がみられないので改善されていると考えられる。

結論：LMAと自発呼吸を用いた全身麻酔では、酸素取り込みの経時的な悪化はみられなかった。